

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

| | | | |
|---------|--|--------|-------------------|
| 整理番号 | 12 | 実施計画番号 | 10 |
| 事務事業名 | 資源再生利用事業 | | 事業開始年度 平成5年度 |
| 担当課名 | まちづくり支援課 | | 事務の種類(選択) 自治事務 |
| 根拠法令等 | 関連事務事業 | | |
| 背景や経緯等 | 市民の自主的な集団回収を支援することにより、ごみの減量化・リサイクル推進を図る。 | | |
| 事務事業の目的 | 家庭から排出される紙類、金属類及び空き瓶類などの有価物を集団回収する団体に奨励金を交付することによって、ごみの減量化とリサイクルの推進を図り、循環型社会の形成に努める。 | | |
| 実施状況 | 有価物集団回収登録団体への奨励金交付(1kg=3円) | | |

【人件費の推移】

| | | 23年度実績 | 24年度実績 | 25年度計画 |
|------------|---------|--------|--------|--------|
| 正職員 | 従事者数(人) | 1 | 1 | 1 |
| | 活動日数(日) | 6 | 6 | 6 |
| | 人件費(千円) | 216 | 216 | 216 |
| 正職員以外(選択↓) | 従事者数(人) | | | |
| | 活動日数(日) | | | |
| | 人件費(千円) | | | |

【事業費の推移】

| 事業費合計(千円) | 23年度実績 | 24年度実績 | 25年度計画 |
|-----------|--------|--------|--------|
| うち一般財源 | 1,877 | 1,923 | 2,283 |
| うち国県支出金 | 1,877 | 1,923 | 2,283 |
| うち地方債 | | | |
| うちその他 | | | |

【指標】

| | | | | | |
|------|--------|-----------|------------------|-----------|-----------|
| 活動指標 | 活動指標名① | 集団回収の換算重量 | | | |
| | 計算式等 | 単位 | 23年度実績 | 24年度実績 | 25年度計画 |
| | | kg | 625,407 | 640,940 | 1,000,000 |
| | 活動指標名② | | | | |
| | 計算式等 | 単位 | 23年度実績 | 24年度実績 | 25年度計画 |
| 成果指標 | 成果指標名① | 集団回収の換算重量 | | | |
| | 計算式等 | 単位 | 23年度 | 24年度 | 25年度 |
| | | kg | 目標値 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| | | | 実績値 625,407 | 640,940 | |
| | | | 達成度(%) 63% | 64% | |
| | 成果指標名② | | | | |
| | 計算式等 | 単位 | 23年度 | 24年度 | 25年度 |
| | | | 目標値 | | |
| | | 実績値 | | | |
| | | 達成度(%) | | | |

十和田市事務事業評価シート

| | |
|------|----|
| 整理No | 12 |
| 計画No | 10 |

【担当課による検証】

| ポイント | | 検証(選択) | 評価 | 点数 | 合計 | 検証の理由 | |
|--------------|---|--|----|----|----------------|---|---------------|
| 妥当性 | ① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか | A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている | A | 2 | 4 | 存在意義の見直しの余地 0 / 4 資源集団回収事業実施団体が回収し業者が引き取った量に対し奨励金を交付している。ごみの減量化、リサイクル推進、循環型社会の形成に寄与しており、妥当性がある。 | |
| | ② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか) | A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない | A | 2 | | | |
| 有効性 | ③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか | A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない | A | 2 | 5 | 成果向上の余地 1 / 6 リサイクル率の向上に大きな効果があるが、常により効果のある方法を検討していく必要がある。 | |
| | ④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか | A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない | A | 2 | | | |
| | ⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか | A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき | B | 1 | | | |
| 効率性 | ⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済 | A | 2 | 6 | コスト削減の余地 0 / 6 目的達成に一定の効果があり、削減は考えていない。 | |
| | ⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済 | A | 2 | | | |
| | ⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済 | A | 2 | | | |
| 公平性 | ⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか | A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている | A | 2 | 4 | 受益者負担適正化の余地 0 / 4 資源集団回収登録は、どのような団体でも行えるので、受益に偏りが無い。 | |
| | ⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか | A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき | A | 2 | | | |
| 現在の適性 | | | | | 19 / 20 | 改善の余地 | 1 / 20 |

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

| | |
|------------------|---|
| 方向性の理由 | ごみの減量化、リサイクルの推進は大きな課題であり、現状を維持しながらも、さらに有効な手法を検討する必要がある。 |
| 今後の具体的な取組方策と狙う効果 | より多くの団体参加を画策し、ごみ減量化、リサイクルの推進の啓発に努めていく。 |